

飛鳥・白鳳時代

仏教が日本に伝わってから、各地の豪族の間にも私寺(氏寺)を建立することが流行しました。湖東地方では渡来した人々の居住によって仏教文化の影響がほかの地方よりも早く定着したものと考えられています。

町内では当時の寺院のものと思われる古瓦などが数多く存在します。

法堂寺遺跡

能登川駅の東約700メートル、周辺を宅地に取り囲まれ



法堂寺廃寺 塔心礎と現地説明会。

た水田の中に、高さ約1.5メートルの巨石(塔の心礎)があります。

この一帯の水田は、「法堂寺」の小字名があり条里地割と異なる方位になっています。ここでは、昔から蓮華文の軒丸瓦や土器片が採取されていて、塔心礎の位置や遺物などから白鳳時代に建立された法隆寺式の伽藍配置をした寺院跡と推定され、昭和47年(1972)に能登川町の史跡に指定されました。

平成8年(1996)からの町遺跡公園整備事業に伴う発掘調査により、寺院域や大官大寺式の伽藍配置であったことが明らかになりました。

▼法堂寺廃寺出土の瓦



ほうけいがわら
方形瓦



ふくべんれん げ もんのきまるがわら
複弁蓮華文軒丸瓦



さいべんれん げ もんのきまるがわら
細弁蓮華文軒丸瓦



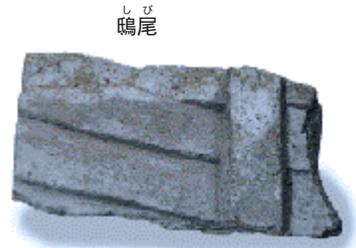
きんせいからくきもんのきひらがわら
均正唐草文軒平瓦



せんきよし もんのきひらがわら
線鋸齒文軒平瓦



れん げ もんのきひらがわら
蓮華文軒平瓦



しび
鴉尾

小川廃寺

小川・宮の前遺跡の西に「賀久堂」との小字名があり、ここは、他の田んぼよりいちだんと高くなっていて、土壇の跡と見られます。

また、この付近には、地蔵堂・大入堂などの小字名が残っていて、古くから寺院があったと推定されます。

跡光寺廃寺

古い書物に「古くこの地に天台の大佛場あり七堂伽藍がありその後荒廃し今田地の字に残れり、なお村号となれり」とあり、現在の地区名はここに由来すると思われます。この地には「寛永寺」「正見寺」「安養寺」などがあつたとの記録もあり、地区の南側に安陽堂・地蔵堂と言われる畑地では、ここから須恵器の破片が採取されました。

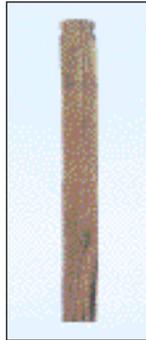
中世以降

「遺跡」といっても、何も原始時代や古代に限ったものではありません。当然のことながら、前の時代に引き続き中世以降も人々の生活は続きますし、この時代の遺跡も町内にはたくさんあります。

主に中世以降を研究対象とした「歴史考古学」と言われる分野の発達はめざましく、国内県内は言うに及ばず、能登川町内でも多くの事実が発掘調査によって明らかになっています。

上山神社遺跡

この遺跡は総合文化情報センター建設地内で発見されたもので、次に説明する佐野南遺跡と同じように、堀で囲まれた区画が見つかりました。おそらく屋敷跡ではないかと考えられ、およそ800年前の鎌倉時代の頃のもので、とくに、井戸跡から見つかったおまじない用の木札は珍しいものです。



上山神社遺跡出土おまじない札

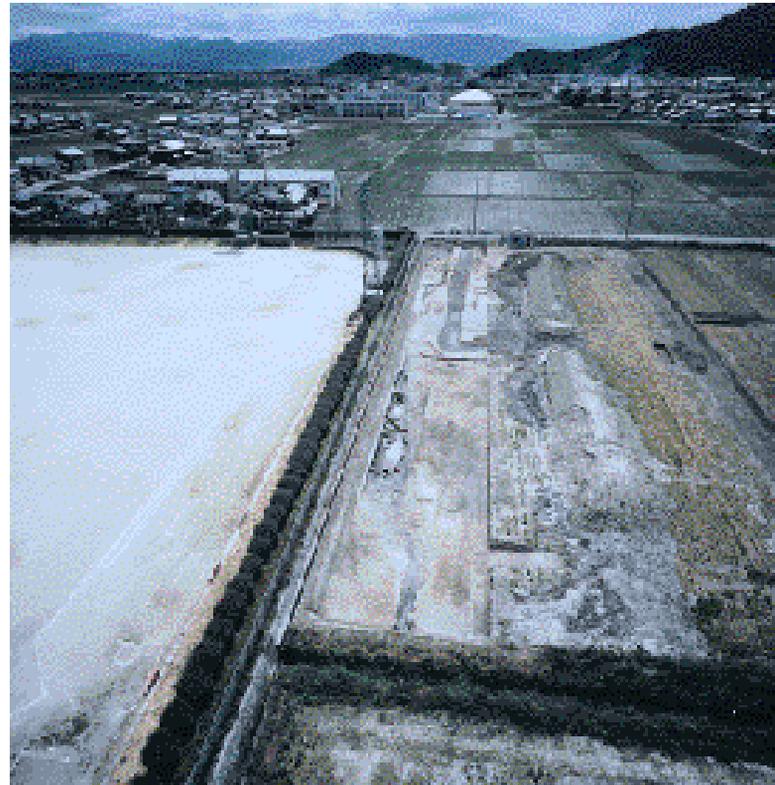
もちろん総合文化情報センターは、遺跡を壊さないように遺構のないところに建てられました。

佐野南遺跡

佐野の公民館前で調査をしたとき、深さ・幅約1メートルの溝で囲まれた屋敷跡が見つかりました。東の方を見上げると、佐生城跡があり、何かしら戦略的施設のような気がする遺構です。およそ700年前の室町時代のものと考えられています。



佐野南遺跡



上山神社遺跡

中村堂遺跡

能登川の集落内で、古い商家を壊して新しい住宅が建てられたとき見つかった遺跡です。意図的に埋められた井戸の跡があって、出てきた土器片から江戸時代のものとわかりました。

一方、古い記録から、その頃ここにあった商家がわかるため、誰がこの井戸を埋めたかがわかりました。



中村堂遺跡